

ALIVE研究：注射薬物を使用するHIV感染者の死亡傾向は変化している

	死亡	生存	P値
年齢 (IQR)	37 (32-42)	35 (20-42)	<0.001
男性 (%)	1594 (77.0)	1959 (71.9)	<0.001
黒人 (%)	1828 (88.3)	2194 (80.5)	<0.001
高校卒業 (%)	873 (42.3)	1230 (45.3)	0.04
HCV感染者 (%)	1315 (91.1)	1608 (77.2)	<0.001
HIV感染者 (%)	767 (62.0)	471 (38.1)	<0.001

- 参加者4,794例のうち1,238例がHIV感染者であり、75,427観察人年あたりの死亡は2,070例であった。
- ARTの普及により、注射薬物使用者の全死因死亡率は2001年以降横ばいの状態が続いている。
- 慢性疾患による死亡率の増加は、高齢者集団における併存疾患の管理が重要であることを示している。
 - ALIVE研究における主な慢性疾患関連死：心血管死（241例）、悪性腫瘍（206例）、肝疾患（123例）、脳血管疾患による死亡（51例）
 - 過量投与／薬物中毒／暴力関連死のうち、350例（67%）が過量投与／中毒による死亡であった。